

New Era of Oncology Nurses in Asiaからの学び

小河 育恵

キーワード：がん看護、タイ方医学、アジア

1. はじめに

第1回アジアがん看護学会学術集会（The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference:AONS）が2013年11月21日～24日バンコク、マヒドン大学医学部シリラ病院Siriraj Hospitalにて開催され、研究成果を発表した。当学会はPongpak Pittayapan（マヒドン大学）を大会長に“New Era of Oncology Nurses in Asia（アジアにおけるがん看護の新たな時代）”をテーマに14カ国参加者465名で盛会のうちに閉会した。当学会報告とタイの医療状況を報告する。

タイの11月は乾季、日本の初夏の様な気候であった。学会開催日から反政府デモ（黄色シャツ）が各地で始まり、警備や体制派（赤シャツ）との攻防、道路の封鎖など、穏やかな仏教国とは異なっていたが、会場は別世界、穏やかに超低温冷房の中で進行した。

2. The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference

本学会参加者は中国が約100名、台湾が65名、日本57名、韓国、フィリピン、インド、シンガポール、インドネシア、イラン、その他の順で、中国参加者のパワフルな行動が目立った。しかし、演題数は台湾がトップで、日本は37編、中国は9編とがん看護研究の関心は異なっていた。研究分野別発表数は表1のとおり“Quality in Cancer Care”“Innovation in Practice and Roles”“Spiritual Care”の順であり、「革新的な実践と役割」は本集会の特色で、国際がん看護学会の演題とは異なった。近年、アジア圏諸国とものがん罹患率、死亡率が急激に増加しており、医療水準差はあるものの関心は高いと考える。しかし本学会で発表したSupport regarding sexuality for breast cancer survivors living in non-major cities in Japan のがんサバイバー関連研

究は、他の国際的ながん看護学会ほど関心は高くなく、むしろ本学会では症状コントロール等研究に関心が高かった。

先般、世界的がん患者増加の予測（国際がん研究機関IARC 2014）が発表されたが、タイの死因第1位もがんで、女性の子宮がんによる死亡数が最多、次に乳がん、肝がんが多数で、がん検診啓発をTVで多数放映していた。一方看護面では、タイのがん専門看護師は少なく、本学会参加看護師はライン付ナースキャップの楚々とした姿で、がん看護の専門を聞いても職位で答えられ、現状は判らなかつた。タイのがん医療は次に報告するタイ

表1 研究課題

Abstract category	Oral	Poster	Number
Quality in Cancer Care	6	9	15
Innovation in Practice and Roles	3	12	15
Symptom Management in Chemotherapy	3	8	11
Spiritual Care	5	8	13
Quality of life	1	5	6
Safety in Cancer Care	0	5	5
Information Need	0	3	3
Survivorship	0	5	5
Nursing Education	1	2	3
Oral Care	0	2	2
Cancer Prevention and Control	1	6	7
Fatigue	2	3	5
Psycho-Social Problem	0	8	8
Patient Experience	2	7	9
Evidence Based Practice Evidence	1	2	3
CAM in Cancer Care	4	4	8
Surgical in Oncology Nursing	0	7	7
Oncology Nurse	0	8	8
Workforce and Healthy Workplace Issues	1	6	7
Palliative Care	1	7	8
Ethics, Informed Consent and Clinical Trials	0	3	3
Pediatric Cancer Patient	0	2	2
Nutrition	0	2	2
Sexual Health	0	9	9
Elderly Cancer	1	1	2
Pain Management	1	3	4
Oral Targeted	0	1	1

Ikue Ogawa

関西福祉大学 看護学部

方医学よりも西洋医学が選択されていた。それらは、タイの医療産業への近隣国からの期待も関連している。しかし欧米のがん看護が全てではなく、本学会テーマの「革新的な実践と役割」を勘案するならば、アジア圏のがん看護は、欧米とは異なる独自の文化を活かしたがん看護への挑戦を期待されよう。

3. タイの医療事情

マヒドン大学シリラート病院はチャオプラヤー川西岸トンプリー地区、敷地は東南アジアを誇る。1889年チュラロンコーン大王(ラマ5世)が創立し、ソクラーナカリン(タイ医療の父)が教鞭を取った事で知られるタイ最古の国立総合大学である。医学部を中心に発展し、学生数と教授陣の比率は8対1でゆったりと学究に進め、同大学医学部と日本の学術交流は盛んである。だが、看護学部は医学部ほど盛んではない。また、タイでは女性が僧に近づく、身体に触れること禁止等の厳しいルールがあり、看護では宗教や文化を理解する必要がある。

シリラート病院ロビーはホテルのロビーより豪華絢爛、病棟も広いが、同敷地内のタイ伝統的な医療のSiriaj Applied Thai Traditional Medicine(写真1)は、壁・床とも木材使用の静肅な雰囲気では煌びやかさはない。またタイ式マッサージはリラクゼーションのイメージが強いが、タイ方医学(ペートペンタイPhaet Phaen Thai)の1つの治療法である(表2)。西洋医学と同様にタイ方医学による診断(詳細な問診)、治療と薬(同施設で製薬;生薬、錠剤、カプセル剤)が処方される。タイ方医師、助産・分娩(国家試験に合格すれば助産師)は、中国の漢方医とは異なるサムンプライ(Samunphurai、タイハーブ;木、花、葉、根、種子等)を用いて治療をする。プレゼンされた学部長によると、タイ方医は奥深く、修得するのに時間が必要との事であった。同大学には西洋式病院と並列してタイ方医病院があり、其々の独立した病院が存在し、タイ方医の見学では、自然的空間でハーブボールによるマッサージやタイ式ヨガで安寧さを体験できた。そのことは、看護の中で自然やその国の



写真1 The Faculty of Medicine, Mahidol University Siriraj Hospital



Srisavarindra Building



Phaet Phaen Thai



Samunphurai



タイハーブ



5階病室から見た中庭

表2 タイ方医学

西洋医学	欧米の高水準 医療産業として有名	
タイ方医学	タイ式マッサージ	マッサージによって、押す・ひねる・引く・軽くたたく等タイ式ヨガ (Rusiedutton)
	ハーブ玉 (Prakhop) マッサージ	サムンプライの玉によって、押す・押し付けてもむ
	蒸す (ハーブサウナ)	サムンプライの蒸気によって、筋や筋肉をほぐす
	薬 (油、軟膏)	薬を塗る、擦りこむ
	薬 (粉末薬、煎じ薬)	薬を処方する。製薬 (錠剤、カプセル等)

文化を融合した援助の考案し、健康維持や緩和ケアには取り入れることが可能と考え、興味深かった。

訪問は短時間であり、今後興味深いタイ方医を学ぶ機会を是非得たい。

4. おわりに

アジアンがん看護学会参加し、タイの医療状況を垣間見た。日本で馴染みのタイ式マッサージは、独自の治療方法として発展し、マッサージだけでなくハーブを活用した様々な治療が存在した。本学会のテーマである New Era of Oncology Nurses in Asia は、今後伝統的な方法と西洋式看護とどのように融合していくのか検討すべき機会となれば良いと考える。だが、タイの看護も西洋風に傾いており、がん看護に自国の文化を活かし自然との融合が強い方法も取り入れるべきと考えた。今回の

文献

- 1) The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference Abstract Book
- 2) <http://www.mahidol.ac.th/muthai/2013/12>
 . 国際がん研究機関 (IARC) (<http://www.iarc.fr>) : 世界がん報告2014, IARC <http://apps.who.int/bookorders/anglais/detart1.jsp?codlan=1&codcol=76&codcch=31>